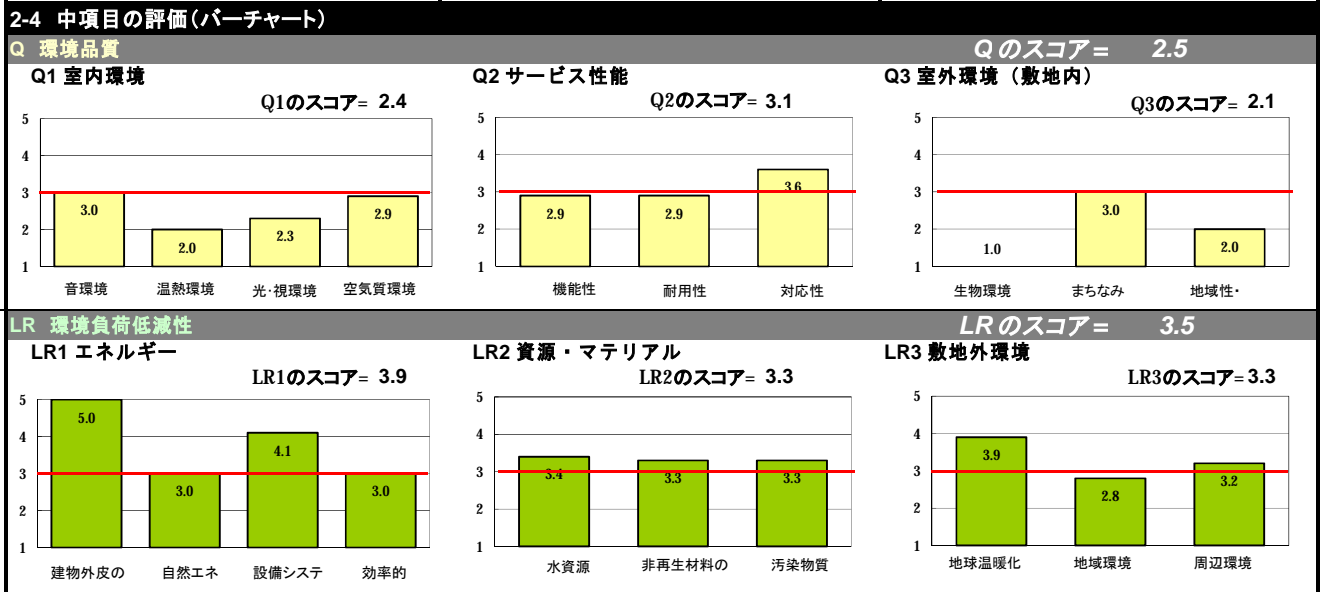
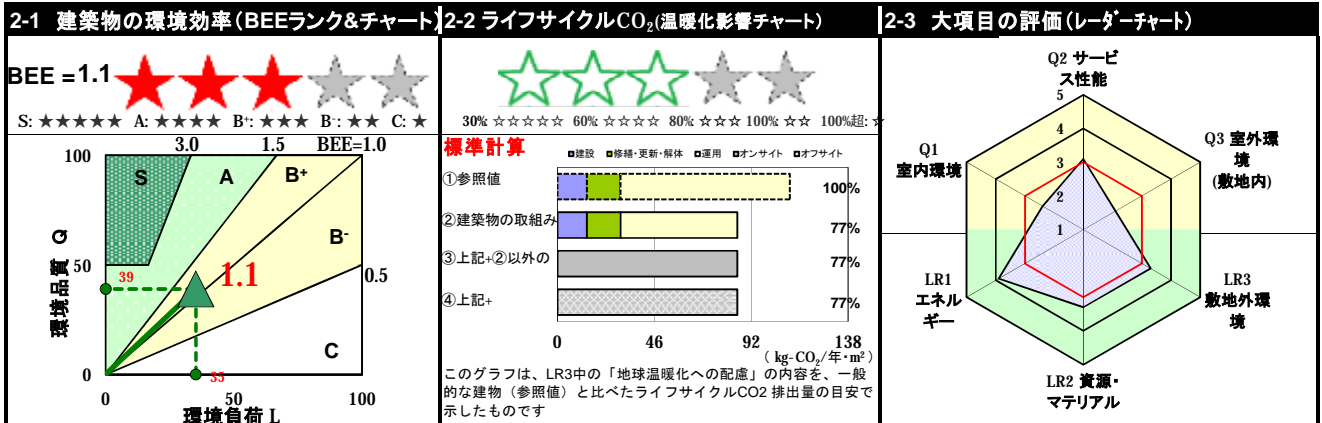


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	総合事務所 新設工事	階数	地上3F
建設地	大阪府高石市高砂	構造	S造
用途地域	工業専用 地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年04月 予定	評価の実施日	2023年05月08日
敷地面積	2,619 m <sup>2</sup>	作成者	張田 裕之
建築面積	1,015 m <sup>2</sup>	確認日	2023年05月19日
延床面積	2,943 m <sup>2</sup>	確認者	岡田 一成

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
照度が500lx以上1000lx未満。 建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	事務室の天井高2.7m以上。 給水VLP(B)、給湯SUS(C)、排水VP(B)、Eは不使用。 階高:3.9m以上。	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI <sub>m</sub> =0.77。 [BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.69。	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率77%。 光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-0021

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	総合事務所 新設工事					
		建設地	大阪府高石市高砂					
		用途/区分	事務所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					2		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					4		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容			スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.9	4		
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			1.0	2		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価			2.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価			3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			4.1	4		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
その他								
		技術の名称	考慮事項					
先進的技術の導入								
特に配慮した事項		ライフサイクルCO2排出率77%。 BPIm=0.77。 [BEI][BEIm] = 0.69。						